

のであり、MC補正よりは良いと考えられる。更に発展させて、ベイズ補正值に対してリスクを定量化してみると、DBTTは高浜1号炉が最も高く（初期値が大きい）、残差のバラツキは玄海1号炉が大きい。玄海1号炉が最もリスク値が高いのは、残差のバラツキが大きいためである。压力容器管理の最適化のためには、リスク値の大きさに応じて管理することが重要であると結論付けている。

最後に压力容器鋼管理の高度化に対する提言として、①機構論やマルチスケールモデリングによる予測、②実測、③統計学を用いた補正、④残留リスクの定量化によるリスク評価、⑤リスクに基づく管理に関する意思決定を挙げている。これらは他の分野にも当てはまる危機管理の手法である。

2015年に規制庁主催で「日本機械学会「維持規格」及び日本電気協会「原子炉構造材の監視試験方法」に係る技術評価」が実施された。2012年版/2013年追補及び日本電気協会「原子炉構造材の監視試験方法」2013年追補版について、技術評価書案及びこれに基づく基準解釈文書案が検討された。講師はその検討チームの外部専門家として活動し有益な助言を行っている。ベイズ統計に基づく脆化予測は、そのときの経験がもとになっていると考えられる。これは従来にない手法であり、今後の発展が期待される。

(義家敏正 記)

### 入会勧誘のお願い

協会では放射線利用技術の推進と啓蒙を通して、産業の育成・発展に寄与すべく、ホームページの表紙に示しましたような活動を行っています。これらの活動は主として会員の会費を基に進められております。ぜひお近くの方で関心をお持ちの方に入会をお勧め頂きたいと思っております。入会は法人、個人いずれの資格でも出来ます。お申込はホームページより入会申込書をダウンロードして頂き、必要箇所をご記入、ご捺印の上、郵送にてお送り下さい。

#### 会員種別と年会費(入会金は不要)

個人正会員	10,000円
団体正会員	50,000円
賛助会員	10,000円以上 任意
先端科学研究会会員	100,000円

申込先 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-3-27  
一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会  
電話 06-6282-3350 FAX 06-6282-3351

メールアドレス onsa-ofc@nifty.com

お願い: @は@に置き換えて下さい。